第３回司書部会　まとめ3

漠然とした問いについて、今後取り組みたいこと、その他困っていることなど

■意識して（または意識せずに）やってきたこと

・質問してきた生徒と一緒に本棚をまわりながら、いつも（普段）どんな本を読んでいるのかを聞く。

　万人向けの本はない。個々人の興味を聞き出す。

・本を提示してみてダメだったらすぐ別の本を出す。

・生徒が聞ける雰囲気を醸し出す。

・普段から、対応を間違えると信頼されなくなる。関係に亀裂が入る恐れあり。

■他の人の話を聞いて参考になったこと

・友達に本を薦めてもらう。　司書より効果あり！？

・先生に薦めてもらう。

　生徒が知っている先生の推薦本は借りていく。

　図書館に先生推薦図書のコーナーを作る

・何気ない話の中から生徒が本を借りていくことがある。

■これからできること

☆先生おすすめのコーナー作り。

☆本の一部分を紹介して魅力を伝える。

■漠然とした質問のわりに急を要するものが多いことに対して

・質問を投げかけたりして、本人の様子を窺いながら話を進める。

・司書が自信を持っていることが大事。それが伝わるように話を進める。

■情報をそれとなく聞き出す…生徒はいきなりしゃべれない

・（例）「面接の本無いですか？」　の場合

面接の対策本なのか「読んだ本」のネタ探しか、就職か進学か、いつ頃までに本が必要なのかetc…最初からきちんと言える生徒は多くない。先読みして情報を引き出す

・情報が少なかったりして困ることもあるが、焦りを生徒に見せないように、堂々とすすめる。

・まず生徒の様子を観察する。

・自分から質問して来られない子も多い。そのような子へのサポートも必要。

■ライトノベルの断り方が分からない。

学校の方針で購入できなくなった。昔は購入していたため、明確な断り文句が見つからない。

・ただ「ダメ」ではなく、生徒に理由を説明すべき。･･･「長いシリーズだから」

・公共図書館で借りる。

・学校に、短いシリーズもあること、ラノベを楽しみにしている生徒も多くいることを説明し、購入できるよう掛け合ってみる。

　⇒生徒は、先生が「ここまで動いてくれた」と嬉しいもの。

■気づいたことなど

・生徒との会話から本に対するニーズを把握できるように、会話力をつけていきたい。

・「〇〇先生が良いと言っていた本」「国語の授業にも載っていた本」等、図書室以外とも関係づけて本を紹介するために、日頃から教員ともコミュニケーションをとっておくことが必要。

・薦めたい本をすぐに生徒に渡したり、敢えて焦らしたりと本を渡すタイミングを変えてみる。

・後々、生徒が本の世界に入ることができるようには、今どのような本を薦めれば良いかまで考えて対応する。

・蔵書の内容をしっかりと把握し、十進分類だけではなく、「面接で使える本」「読みやすい本」「話題になった本」等、自分なりの分類もしておくことで生徒の要望にも応えやすくなる。

・本に関する深い知識が必要不可欠。

・本の目次を生徒に実際に見せながら「これだけ読めばいいよ。」と伝えることで、本を読むハードルを下げる。